

○岡田議長 次に、岩崎議員。

〔岩崎議員質問席へ〕

○岩崎議員 それでは、午前中の代表質問から、そして午後の関連質問ということで、いよいよ最後のトリを務めさせていただきます。会派自由創政の岩崎でございます。先ほどの戸田議員の代表質問に関連いたしまして、大要3項目質問させていただきたいと存じます。どうぞよろしく申し上げます。

それでは早速ですが、1項目め、地方創生を軸とした人口対策の推進について質問いたします。

代表質問の人口減少対策の答弁によりますと、本市は近隣自治体からの人口流入によるダム機能も働き、人口減少は比較的緩やかである。今後は広域的視点による対応も必要。例えば鳥取県西部圏域で生活機能を維持強化していくモデル事業や若者の出会いの場づくりなど取り組みながら、圏域単位での人口対策を強化していくとの答弁がありました。

そこで、地方創生の人口減少対策について関連質問させていただきます。人口減少対策の一丁目一番地は、若者や女性に選ばれる地域を創造することにあります。そこで、本市において、非正規就労など所得・雇用の不安定な状況や、女性が出産に伴い退職したり、非正規就労に切り替えざるを得ない、いわゆるL字カーブ問題の対応策について見解を伺います。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 このL字カーブの問題につきましては、県内でも依然として継続している課題であります。そこで、第4次米子市男女共同参画推進計画策定してございますが、その中に

おきまして、職場における男女共同参画の推進など、重点目標に掲げた上で各種取組を現在進めているところであります。その一つが子育て中の女性の資格免許取得支援としての女性の専門職資格取得助成事業であります。これは平成28年から実施をしてございますが、利用件数も年々増加傾向にあるところであります。また毎年フォローアップをしてございますが、利用者の皆様方からは、就職につながったですとか、あるいはキャリアアップになったと、そういったお声がたくさん届いているところであります。

あわせて、女性が働きやすい職場づくりの観点でも今、各種取組を進めてございます。例といたしましては、本市も推進をしております働く女性のヘルスケアの取組といたしまして、様々な講演会、企業セミナーなど実施をしてございます。そういった場を通じて市内の民間企業への普及ですとか、あるいは導入支援につなげてまいりたいというふうに考えております。

また、女性社員が活躍している企業、これは様々な国とか県の認定制度がございまして、そういった企業をロールモデルといたしまして、情報発信にも努めているところであります。今後とも男女共同参画推進計画、着実に推進をしてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 それでは次に、地方創生の一環として指摘されている、地域における子育て支援力の強化について、これの現状と課題、また対応策について伺います。

○岡田議長 瀬尻こども総本部長。

○瀬尻こども総本部長 子育て推進力の強化についてございま

すが、少子化が進む状況におきまして本市では、よなごっこ未来計画に基づきまして、子育て当事者が希望を持って子どもを産み育てられる環境を整えていくために、子ども、若者、妊産婦、子育て当事者への切れ目ない支援に取り組んでいるところでございます。具体的にいたしましては、妊婦の方を対象といたしました経済的給付と相談を合わせました伴走支援や、出産後における産後ケアサービスや乳幼児健診の充実、また子育て期の一時預かり事業の拡充などの保育サービスの充実などに努めてまいりました。今後も良好な教育・保育環境の整備や保護者からのニーズの高い事業の拡充、新たにこども誰でも通園制度の実施など、子どもを産み育てることに希望が持てるような社会の実現に向け、地域全体で支援してまいります。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 この問題の最後に若者の将来的な地元定着の促進についてお尋ねしたいと思います。若者の首都圏や関西圏への流出が止まりません。大学で都会に出たら帰ってこない。田舎に残されているのは高齢者だけ。そんな話をあちらこちらで聞きます。本市は自然環境に恵まれ、一定の生活環境が充実し、コンパクトにまとまった暮らしやすい環境であると考えますが、一方で、若い世代が働きやすく、子育てしやすい環境であるかどうか、これは少々疑問であります。米子発地方創生を掲げていらっしゃる市長、市民が最も期待している政策は、若者の地元定着ではないでしょうか。お考えの一端をお聞かせください。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 おっしゃるとおり若者の地元定着、これは大変重要

なテーマだと認識をしております。そのためには魅力的な働く場の確保、これが最重要課題ではないかと考えておりました。昨年10月には、米子市関西事務所の職員配置を復活いたしましたほか、次期産業用地の整備について、開発手法も含めまして全庁で検討を行っているところでございます。また、来年度からは現在の経済戦略課を新たに企業立地支援課といたしまして、誘致体制の強化を図ってまいりたいと考えております。

加えまして、中学生の職場体験や企業見学を行いまして、魅力ある地元企業を知る機会を設けていくとともに、人材不足が深刻化しております建設や土木分野における高校生の市内就職を促進するなど、若者の地元定着につながる具体的な施策も展開してまいります。

さらに、それと併せまして、子育て環境の充実や暮らしの充実感や楽しさを実感できる環境づくりなどにつきましても、重点的に取り組みながら、若者世代にとって働きやすく子育てもしやすいまちづくりを推進してまいります。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 代表質問で戸田議員のほうからも強く要望されました企業立地、そういった企業誘致の関係で、やはり製造業っていう話も出てまいりました。若者の、要するに就職を地元でやっぱりやっていただきたい。これも本当に私のほうからも強く求めておきたいと思いますので、ぜひとも率先して市のほうも取り組んでいただきますように要望しておきたいと思います。

それでは、次に項目が替わります。社会インフラの整備促進についてであります。

道路、港湾、上下水道、消防等の整備は私たちの生活の質を向上させる要素となります。社会インフラの整備を進め、災害リスクの低減、経済成長の土台づくり、そして少子高齢化への対応等を通じて住民の安全確保に努める必要があります。この項で私からは、地域防災力の充実・強化について何点かお尋ねをしたいと思います。

地域での人と人のつながりは、災害時の対応において非常に重要であります。地域でのつながりを強化することで、災害時の助け合いが生まれる環境を整え、安心して暮らせる地域の実現を図る必要がございます。そこで、次の項目を3点お尋ねしたいと思います。まず1点目は、本市の自主防災組織及び自主防災組織連合会の現状と課題についてお尋ねします。

○岡田議長 佐々木総合政策部長。

○佐々木総合政策部長 まず現状でございますが、組織数に関して申し上げますと、今年度、自主防災組織、単位組織としては新たに2組織、また連合組織については新たに1組織が結成されたところであります。

活動の現状を申し上げますと、より実践的な活動というのが展開をされているところであります。具体的には、連合組織の例で申し上げますと、大篠津地区で避難所運営を取り扱った防災フェスティバルを開催するですとか、あるいは単位組織で申し上げますと、福生西6区自治会の防災会におきまして、防災資機材を活用いたしました取扱訓練など、実施がなされているところであります。

私どもとしては、ぜひこういった活動を広げてまいりたい。あ

とは組織数をよりその組織化を促していきたいというふうに考えておりました、例えば自主防災組織育成補助金による財政支援ですとか、あるいは防災スクール、防災研修会などを通じまして、人材の育成などにも取り組んでいるところであります。

引き続き、それぞれ個々の地域の事情もございますから、そういった実情も把握をしながら、モデル例の啓発ですとか、あるいは組織の結成促進に努めてまいりたいというふうに考えております。以上であります。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 ちょうど昨年6月にもこの質問をいたしまして、それからの推進状況はどうだという問いでございました。連合組織では新たに1組織、そして自主防災組織を新たに2組織ということとございまして、着実にいろいろ実行されているということもお伺いしましたので、どうぞ引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、本市の防災行政無線と防災情報伝達の現状と課題についてお尋ねをいたします。

○岡田議長 松本防災安全監。

○松本防災安全監 防災情報伝達につきましては、現在、防災行政無線放送と連動した放送内容の聞き直しサービス・防災ラジオや中海テレビのテロップ放送による周知を行っております。そのほか本市ホームページやトリピーメール、SNSなどを活用しております。このような様々な方法での情報発信を行っておりますが、情報収集手段が限られますいわゆる情報弱者の方への情報の伝達というものが課題であると考えております。今年度から鳥取

県が視覚障がい者向けに耳で聴くハザードマップの運用を開始されておりまして、本市としましても関連団体と情報共有を図るなど、周知を図っているところでございます。情報収集手段が限られます方への確実な情報伝達は重要でございます。そのため福祉関係施設、こちら9団体で構成しておりますけれども、そちらと災害時の対応等につきまして協議を現在行っております。また、避難所等におけます対応としましては、要約筆記用の電子ノートの整備や、やさしい日本語による文字情報の提供を行うなど、ちょっとした工夫ではございますが、そういったものも実施しております。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 るる答弁をいただきました。今年度はさらにいろいろ活発に取り組んでおられるということがよく分かりました。どうぞ引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、最後の項目でございますが、県営東山水泳場と皆生市民プールの統廃合による新水泳場の整備について質問いたします。

代表質問の答弁では、県営東山水泳場、皆生市民プールとも築40年以上が経過しており、老朽化が進んでおります。また、県営東山水泳場は屋外であり、年々厳しさを増す猛暑による十分な競技環境の確保が困難となっている。鳥取県との共同で屋内の新水泳場を整備するよう協議を進めるとの答弁がございました。そこで、現在までの県との協議の状況についてお尋ねします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 県営東山水泳場と皆生市民プールの統廃合

によります新水泳場の整備につきましては、適切な競技環境の確保に向け、議論を着実に進められるよう、県に対しまして要望書を提出するところでございます。現状といたしましては、事務担当レベルでの協議を継続して行っているところでございます。以上です。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 現状は事務担当レベルでの協議を継続して行っているということでございます。ぜひ、引き続き積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

続きまして、協議に当たっての本市の整備方針、これ重要になります。この整備方針はどのようにお考えなのかお尋ねしたいと思います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 屋外施設では利用期間が夏季に限られることに加えまして、年々厳しさを増す猛暑によりまして十分な競技環境の確保が困難となってきてございます。競技環境の充実を図る必要が高まってきておりますことから、本市は新水泳場を屋内施設として整備することを提案しております。そういったことを県と協議を今行っているところでございます。以上です。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 あわせ、新水泳場の整備地についてもお尋ねしたいと思います。どのようにお考えであるのかお尋ねします。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 新水泳場の整備に当たりましては、県と本市の財政負担を軽減することができるよう、国費や起債など有利

な財源を組み合わせて活用することを想定してございます。東山運動公園に新水泳場を整備することで、米子アリーナ整備事業と同様の財源を活用することができ、県・市両方の財政負担を最も軽減できるではないかというふうに考えているところでございます。以上です。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 先ほどの整備方針、そして整備地について、まず答弁を求めたところでございますけれども、実は私が質問した背景には、もちろん行政でありますので当然予算ありきで話を進めていくっていうのは非常に重要でありますけれども、本当にそれだけの視点で大丈夫ですかと、足りないんじゃないかって実は私は思っております。この後の質問にもつなげていきたいと思っておりますが、やっぱり市民の方が、特に子どもさん方が楽しんでいただけるような、どうせ整備していくんならそういった視点も重要になってくるんじゃないかなと思っております。そこでお尋ねしますが、競技主体だけではなくて、誰でも気楽に楽しめる水泳場として整備すべきであると考えますけれども、見解を伺います。

○岡田議長 石田文化観光局長。

○石田文化観光局長 新水泳場の整備に当たりましては、まずは適切な競技環境を確保することができる施設として整備することが必要であると考えてございます。競技以外の使用につきましても、一般の方の利用や、小中学校の水泳授業での活用なども想定してございます。実現に向けまして具体的な構想や計画を作成する段階におきまして、民間事業者からの提案なども伺っていくことになるのではないかと考えてございます。以上です。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 さっきも申し上げたとおり、予算ありき、あるいは同時に予算と場所というようなことで、要するに枠を決めたまま基本計画に進んでいくではなくて、一回やっぱり立ち止まってとか、もう一回ゼロベースで考えて、市民の方のあらゆる意見、子どもたちの意見も含めて考えてみたらいかがでしょうかというふうに私は強く思っております。もちろん老朽化した施設がありますので、ぜひ県との統合を視野に入れた更新を図っていく。そして市・県民の健康増進を図ることはもとより、例えば観光振興等のサービス向上の視点とか、民間のプール経営ノウハウ、こういったところを導入されて、誰でも気軽に楽しめるような新水泳場となりますように計画をすべきではないかというふうに強く思っておりますが、市長、見解をいただきたいと思えます。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 このたび新たに造っていかねばいけないプールにつきましては、代表質問の答弁やあるいは局長からの答弁にもありましたとおり、基本的な機能というものはまず押さえておかなければならないというふうには思っております。ただ一方で、例えば皆生プールを、これ統合の一つのプールとするわけですが、御存じのとおり、25メートルのプールの横に、水深の浅い、幼いお子さんでも楽しめるようなプール、滑り台なども含めて設置してございます。これはやはり水に親しむ機会というものも、我々米子市としては適切に子どもたちに提供してやりたいというふうには思っております。もちろんまだ具体的な話合いというものには進んではおりませんが、議員が言われましたよ

うに、子どもの頃から楽しんで水に親しむ環境を我々米子市としても備えられるように、今後検討が始まりましたら、その辺りにつきまして、具体的に検討を進めるようにしたいというふうに思います。

○岡田議長 岩崎議員。

○岩崎議員 市長、ぜひともよろしくお願ひしたいと思います。

この質問に当たっていろいろ聞き取りから、局長ともいろいろお話もしながら、いろいろ感じる部分は、やはりきちんと押さえるべきは押さえないきゃいけない。例えば、予算の関係、有利な財源の関係、ひいて言えば、それによって地域としては東山運動場で限定的な話ってというようなことを結構聞きまして、いや、ちょっと待てよと。それだけで本当にいいのかなと、本当に強く思いました。

例えば、午前中の代表質問の答弁でもありましたように、西部広域の焼却施設が弓浜地区で今後展開されるんでしようけども、そちらのほうの例えば熱源を利用した、午前中にありましたようにスポーツ公園も話の一端ではあるなということもございましたけれども、例えばそういう場所、あるいは皆生プールの話もありましたけども、あのちっちゃなちっちゃな幼児用のプールで、スライダーが1つ、滑り台が1つついてるんですけども、あれだけでもすごく楽しいんですけども、もうちょっと大胆な発想で、例えば流れるプールとか、例えば大きなスライダーとか、そういったものもありながら、一方で競技もきちんと50メートル屋内プールがきちんと整備され、高飛び込みなんかもできるような形のものも整備され、一方で市民誰でもが楽しめるような、そういう

発想も本当に必要になってくるんじゃないかなと思います。

もう一度申し上げますと、やはり基本計画を進めるに当たって、もう枠でがちゃっと固めるのではなくて、本当にあらゆる楽しさも含めながら、自由な発想でいろんな市民の意見も、多様な意見も聞きながら、最終的に方針決定をされていくというような流れでぜひお願いしたいと思います。

予定をしておりました質問は以上で終わりたいと思いますが、最後に、ちょうどこの3月末で御勇退なさいます何名かの職員さんいらっしゃいます。当然、執行部のほうの壇上にも何人かいらっしゃると思いますが、本当にこれまではお疲れさまでした。また、大変お世話になりました。ぜひ皆さん方の大きな大きな経験を生かしながら、今後はもしかしたら市役所に残って、役職定年を迎えられても残られる方も何人かはいらっしゃると思いますが、またいろんな新しいステージにも行かれる方もあると思いますが、ぜひとも大所高所から我々のことも今後も引き続き御指導いただきまして、ぜひ幸多かれと祈るばかりでございます。

以上で午前中からの代表質問、そして会派による関連質問も全て終わります。大変ありがとうございました。終わります。

○岡田議長 以上で本日の日程は終了いたしました。

お諮りいたします。本日はこれをもって散会し、明4日午前10時から会議を開きたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○岡田議長 御異議なしと認め、そのように決定いたします。

本日はこれをもって散会いたします。

午後3時53分 散会